

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	平成20年1月27日
調査実施の時間	開始10時00分～ 終了16時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	医療法人永楓会 グループホーム 千怒の杜 (大分県)
-------------------	-------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>宇戸田 実男</u> 氏名 <u>桑島 英治</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>安田 貴志</u> ヒアリングを行った職員数 ( 5 )人

### ※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

### ※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	4470700214
法人名	医療法人永楓会
事業所名	グループホーム 千怒の杜
所在地	大分県津久見市千怒字藤道3849番地 (電話) 0972-85-3849
評価機関名	特定非営利活動法人 大分福祉サービス評価機構
所在地	大分県大分市大字下郡1015の5番地
訪問調査日	

【情報提供票より (平成21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤7人, 非常勤12人, 常勤換算14.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り
	2階建ての 1.2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5万円~6.3万円 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( ) 無( )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無( )	有りの場合 償却の有無	有( ) / 無( )	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	なし円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月20日現)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 81.5歳	最低	74歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくみクリニック 津久見中央病院 秋岡デンタル 加納眼科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 市内に程近い住宅地の中に建物は造られている。木々に囲まれた閑静な雰囲気のある落ち着いた木造建築である。2ユニットが、坂の斜面を利用して接続されており、中2階建ての構造となっている。
2. 「つくみクリニック」の10年の地域医療活動を母体に設立された当グループホームは、母体の在宅診療の幅を広げるべく、認知症高齢者への介護に寄与することを目的として、運営されている。
3. 地域との交流もきめ細かに行われており、文字通り、地域に根ざした施設として、地位を築いている。
4. 利用者・家族からの評価も高く、医療との関連で、安心して介護を受けられる施設であり、終末期まで住み続けられる施設であるといえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 定期的な運営推進会議の開催が求められているが、今回の調査でも、関係者との連携は十分取れており、開催の必要がないとのことであった。しかし、基準省令85条にも、2か月に1回以上の開催が求められており、まずは会議を開催することから、始めたら如何と考える。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 利用者の外出などの生活上の希望には、職員が努力して、十分対応出来ている。家族とのコミュニケーションも、努力されていることが伺える。苦情を含めて、書式を整備したら、職員間での情報の共有が進むのではないかと。取組を希望する。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 過去の運営推進会議で、出された「小学校との交流を定期的に持つように」との提案については、実施されており、小学校からも声掛けがされている。</p>
	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 通常ご意見箱での家族の意見・苦情はほとんどないので、職員が日常利用者とサービスを提供している時などに、聞かれる「苦情・不安・意見」などのつぶやきを逃さず、記入して、管理者へ提出、職員みんなで検討して改善活動ができれば、風通しの良い職場になると考える。ヒントになれば、と思います。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域医療の在宅診療の幅を広げるべく設立された当グループホームは、地域との関係作りには、重点的に取り組んできたし、現在も取り組んでいる。母体病院との関係も良好であり、市役所・警察・消防署との連携も十分取れている。今後とも、この良好な関係の維持を期待したい。</p>

## 2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 宇戸田 実男

同行調査員氏名 桑島 英治

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所が地域の中でどのような役割を持ち、あるべきかを、玄関に掲げている。他に職員で作上げた千怒の杜の心得として7つ掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体で考え出したものがあり、朝礼の後に読み上げ、再確認し業務に携わるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理念を玄関先に掲示しており、面会や来客の際に目につくようにしている。単に理念の掲示だけでなく、地域との交流行事・利用者外出時の地元の方との挨拶等良い関係作りが出来ている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を参考にし取り組めるところから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去開催した運営推進会議にて、小学校との関わりという議題があり取り組んだことにより、小学校との関わりは定期的に小学校からの声かけがあり、できている。	○	運営推進会議のメンバーが、病院院長・看護師・事務局長と家族2名、市役所代表、市議1名、地域代表等で、常時意思疎通が行われているため、開催されていない。しかし、運営推進会議は重要なので、2か月に1回は、開催していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新申請等提出する際に、出来るだけ、話をする機会を作っている。また、地域包括ケア会議に参加し、全体で取り組む体制を施設でも取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態等話をしており、状態が悪くなり、検査等が必要な方・熱発が続いている方はすぐに電話連絡をし面会に来てもらえるようにしている。遠方の家族の方には、電話連絡をしている。。金銭管理は、毎月毎に購入物品のレシートと、出納表を含めて郵送している。職員の移動は今のところ行っていない。	○	遠方のご家族の方へも日々の詳細がわかるような書式を現在作成中とのこと、是非実施に移し欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、意見をいただけるようにはしている。また、家族の面会時に現状を説明し意見をもらえるようにしている。口頭で受け付けた場合には、その都度、利用者、ご家族、職員と話し合いを行い業務に反映している。	○	通常、意見箱の利用の実績が殆ど無く、口頭での受付が殆どであるので、今後早急に書式の作成をし内容、対応の明確化をしていって欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が2ユニットを把握できるように、定期的に移動をするようにしている。その際に、利用者の戸惑いを最小限に抑える為に事前に利用者・家族に報告し日ごろから全職員が2ユニットの利用者と馴染みの関係を持てるようにしている。移動は基本的に2人/年ペースで行なっているが、利用者に支障ないよう配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設研修・教育研修等積極的に参加するよう呼びかけ実施している。また、職員より希望があれば随時研修に参加できるように配慮している。また、気付いた点があればその都度、より良い方法を助言するようにしている。	○	年間研修計画をたて、それに基づいて、外部研修等に派遣し、その際は、レポートを提出してもらう、または、全体会議で発表してもらうなど、情報の共有を進めてもらいたい。新人には、OJTでの研修をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設より他施設研修を行い、又は他施設より研修生の受け入れを行なっている。又、地域包括支援センターや市内の基幹病院主催の会議、交流会にも、管理者、職員ともに出席、参加をしている。	○	他施設研修をできるだけ、実施しネットワーク作りやサービスの質が上がるように、実施していきたい。佐伯・臼杵とのグループホームとの交流、津久見では老健のつくみかんととの交流を実施している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、お試し入居で1週間程度利用できる機関を設けている。その間に家族、利用者に入居を考えてもらっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に一緒に生活をしているという考えを持ち、テレビを見て楽しんだり、昔のことを教えてもらったりし、職員と利用者の関係作りが出来ている。	○	朝・夕食は、職員も、利用者と共に食事をしている。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前のアセスメント、入居後のアセスメントにて本人の意向を把握するよう努めている。利用者個々の希望にはなるべく添うように外出、日常生活のあり方等把握に努め、出来るだけ対応しており、必要に応じ家族にも協力を求めている。	○	午後から外出できる曜日を決め、個別に外出の希望を聞き、散歩・ドライブ・買い物等利用者と一緒に出かけている。移動販売車も週2回来訪があり、利用している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	かかりつけ医・看護師、管理者、介護職員等の意見を踏まえて計画を立てている。利用者・家族の意見を全員組み込み計画を立てている。また、ユニット会議の場にて見直しをしている。	○	「計画作成にあたり、家族の方の意見を今まで以上に取り入れ実施していきたい。」とのこと、是非実施に移して欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回ユニット会議にて見直しを行う他、必要があれば、医師、看護師と相談し、家族に相談し家族の意向を踏まえ、本人と相談したうえで作成するように努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外泊希望等、家族と連絡を取り合い出来るだけ要望にそえる様に柔軟な対応を心がけており、対応できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体がクリニックなので、医師との連絡調整も行ないやすく、主治医が違う利用者も2回/月以上往診を受けており、主治医の先生へ連絡等スムーズに行なっている。市外の病院受診は家族に協力してもらい実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の時点で終末期についての話が母体クリニック院長、管理者と本人、ご家族と方針をきめている。また、状態の変化した場合や前兆となる場合には、都度に主治医、管理者、ご家族での、再確認、再方針の決定を行っており、その旨を職員全員に伝え臨んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の自尊心を尊重する為にも、失禁の際など他利用者に感ずかれないように自室に誘導し対応できていることからプライバシーは保たれている。個人記録に関しては職員以外が取り扱わないように配慮している。	○	契約書・掲示等で、プライバシー保護は、明記されており、職員も十分理解している。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者一人一人の生活ベースを理解しており、希望に添えることができるように取り組むことが出来ている。また、利用者の体調に応じて職員から外出の声かけをし楽しく生活できるように支援できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け、机拭き、お茶入れ、食器洗い等それぞれ役割があり出来るだけ、利用者の中で調理する機会を設けており、参加してもらっている。食事は朝食と夜食は職員も机を囲み共に食べている。	○	基準省令によれば「第99条3 利用者の食事その他の家事等は、原則として利用者と介護従事者が共同で行うよう努めるものとする。」と定められており、できるだけ、グループホーム内調理場で、利用者と職員と一緒に作るのが望ましいので、今後とも推進方をお願いします。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では、毎日入浴出来る準備はしているが、入浴の時間を13:00～16:00の間で実施しており、利用者個々の希望する時間に入浴は提供できていない。	○	入浴回数は利用者の希望に沿って実施できているが時間帯も希望に添えるよう、検討をお願いしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオル干し、トイレのタオル交換、食器洗い、テーブル拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干し、またメダカの飼育、菜園の水遣り、などすべての利用者を対象に出来ることは実施してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩に声をかけ外出しており、買い物の際には声をかけ一緒に外出しているが、利用者の希望があれば時間を調整し遅くとも翌日には外出できるようにしている。大半はその日のうちに実施できている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開放しており、安易に鍵をかけないケアを念頭に努めている。また、必要時には、玄関等に人感センサーの設置を行なっている。21時以降は安全のため鍵をかけているが、夜間煙草を吸う利用者があるため、鍵は0時以降にかけようとしている。	○	調査訪問時も、玄関の鍵はかかっておらず、鍵をかけないケアが実施されている。



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署にも協力してもらい、年2回以上の防災訓練を実施しており。地域との交流会等で消防団長等と連携を持てるように相談が出来るようになっている。	○	夜間帯等様々なケース想定した防災訓練を地域の方・消防団・消防署の協力の下実施して下さい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の低下している利用者に関しては毎朝かかりつけ医に報告をし栄養状態の管理を行うと共に、食事形態の工夫・食べれそうな食材の確認をし食事摂取量が確保できるように努めている。また、外部より栄養士をまねき栄養指導も取り入れている。	○	半年に1度、1ヵ月分の食事の写真を撮り、地域の基幹病院の栄養士に、献立表とともにチェックしてもらい、必要者には個別に栄養指導を受けている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは落ち着いて過ごす事が出来るように、光の強さを調節しており、花を飾っている。また、水槽にメダカを飼っており安らぎの空間になるように配慮している。リビングでくつろげる様にソファのコーナーを設けている。また、和室にもソファを置き膝の悪い利用者が利用できる様に工夫している。玄関先には花を置き、ベンチを設置し、明るく和みやすい雰囲気作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの・好みで部屋を自由に使用できる旨伝え、実際に使い慣れ親しんだものを持ってきてもらっている。		

※  は、重点項目。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明






評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医)永風会 グループホーム 千怒の杜
(ユニット名)	けやき
所在地 (県・市町村名)	大分県津久見市大字千怒字藤道3849番地
記入者名 (管理者)	安田 貴志
記入日	平成21年1月17日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後も地域の方に理念・役割を理解してもらえるように取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設の地域としての役割として認知されてきたのか、地域の方からの相談など、増えてきた。	○	地域の高齢者との関わりの場を、施設側から積極的に取り組んでいけるよう企画していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を参考にし取り組めるところから取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去開催した運営推進会議にて、小学校との関わりという議題があり取り組んだことにより、小学校との関わりは定期的に小学校からの声かけがあり、できている。	○	規定回数に達するように開催していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新申請等提出する際に、出来るだけ、話をする機会を作っている。また、地域包括ケア会議に参加し、全体で取り組む体制を施設でも取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	青年後見人制度を利用している方が2名おり、必要な方がいれば社会福祉協議会・市役所と連携をして取り組める体制はできている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないように日々努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を順に研修に参加できるようにしている。また、職員より希望があれば随時研修に参加できるように配慮している。また、気付いた点があればその都度、より良い方法を助言するようにしている。	○	すべての職員は研修に参加してもらっており、新人職員入職の際は認知症とはどういうものかを改めて認識してもらえような研修を設けている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設研修を実施し交流の場を設け、少しでも多く研修を持てるように心がけている。	○	他施設研修をできるだけ、実施しネットワーク作りやサービスの質が上がるように、実施していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談を行い日頃、発言しにくい意見を集め働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の勤務状態に合わせ、必要に応じ助言を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際に利用者本人も同席してもらうように勤めているが、家族の意見が主になってくる為、話の途中で利用者本人の意見も聞く時間も作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が安心して利用を決めることが出来るように、頻回に連絡を取り時間をかけ家族の意向をくみ取り、不安感を取り除けるようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの相談の時点で、現状を聞き取り、入居可能になる迄の間、生活するのに必要なサービス・手続きを伝えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、お試し入居で1週間程度利用できる機関を設けている。その間に家族、利用者に入居を考えてもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に一緒に生活をしているという考えを持ち、テレビを見て楽しんだり、昔のことを教えてもらったりし、職員と利用者の関係作りが出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支援するうえで、家族にしか解決出来ない事は家族に相談し、一緒に問題を解決できるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の度に現状を報告して、今の状態を理解してもらっている。また、家族から多くの情報もその都度もらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室等に通り馴染みの関係を保てるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでくつろぐ際に職員が間に入り、利用者どうしで上手く関わりを持てる様に支援している。利用者の中で役割が出来ておりお互いが支えあって生活できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	午後から外出できる曜日を決め、個別に外出の希望に添えるように努め、買い物に行くことがあれば、利用者にも声をかけ一緒に出かけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	情報を収集できるように家族に声をかけ利用者の思いが理解できる様に努めたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	計画作成にあたり、家族の方の意見を今まで以上に取り入れ実施していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		面会時などに家族に現状を報告し、家族の意向を踏まえた上で変更などに組み込んでいきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの様子を簡単に記録できるようにし、見直しに役立てるようにしている。	○	日常の様子を簡単に確認できるように様式を変更し取り組んだ。それにより、その日の状態が簡単に把握できるようになった。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外泊希望等、家族と連絡を取り合い出来るだけ要望にそえる様に柔軟な対応を心がけており、対応できている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の様子を随時、出身地域の民生委員や知人の方に報告をし利用者が落ち着いて生活できるように協力関係が出来ており、地域管轄の警察署も時折様子を見にきてくれている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他サービスの利用希望はないが、有料ヘルパー等利用し外出の間のサービス等話し合い、支援できる態勢を設けている。また、他のケアマネジャーとの連絡は取れている。	○	デイサービス等の他のサービス利用を希望する利用者は今の所いないが、今後、希望がある場合は利用できる方向で他のサービス事業者との連携を持てる様に留意していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月に1度、地域包括支援センター職員との会議の場があるが、現状では権利擁護等の相談はない。	○	相談があればすぐに対応できるような関係を地域包括支援センターと持てる様に関係を密にしていきたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を勘案しかかりつけ医との連携を取り、定期的な受診・往診が出来るように支援している。市外の病院受診は家族に協力してもらい実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>転倒骨折にて入院手術をしたが、病院では認知症の対応が不十分であり対応できず、術後1週間で退院してきたケースもあり、認知症状の進行の恐れがある為、できるだけ受け入れるような体制をとっている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の自尊心を尊重する為にも、失禁の際など他利用者に感ずかれないように自室に誘導し対応できていることからプライバシーは保たれている。個人記録に関しては職員以外が取り扱わないように配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いをいつでも叶えられるように取り組んでいるが、夜間等、時間帯によっては叶えることが出来ない事がある為、ゆっくりと理解できるように説明をして、納得をもらっている。	○ 利用者本人が決めた事を出来るだけ叶えることが出来るような体制をとり、利用者の自己決定できる様務めており、今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者一人一人の生活ペースを理解しており、希望に添えることができるように取り組むことが出来ている。また、利用者の体調に応じて職員から外出の声かけをし楽しく生活できるように支援できている。	
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけのお店がある方は、そのお店に行けるように事前に把握している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ、利用者の前で調理する機会を設けており、実際に包丁を使用しなくても、野菜の切り方など教えてもらうことで、一緒に参加してもらっている。また食器洗い・テーブル拭きも一緒に行っている。	○ 今以上に食事作りに利用者に関わることが出来る体制が取れるように努めたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を勘案してお酒等を提供している。また、飲みたいがなかなか言い出せない利用者に関してはこちらから声かけをする事で楽しんでもらっている。たばこに関しては喫煙場所をきめ職員見守りのもと世間話をしながら吸ってもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の間隔・前回の排泄時間を把握し排泄をトイレで実施できるように声かけを行い、夜間もおむつ対応からポータブル対応に移行できた利用者もあり良い支援が来ている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では、毎日入浴出来る準備はしているが、入浴の時間を13:00～16:00の間で実施しており、利用者個々の希望する時間に人浴は提供できていない。	○	入浴回数は利用者の希望に沿って実施できているが時間帯は今後の課題である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に良眠できるように、日中の運動を促している。また、温かい飲み物や晩酌などをすすめよく眠れるように促している。今では睡眠導入剤を使用している方はいない。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオル干し、トイレのタオル交換、食器洗い、テーブル拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干しなどすべての利用者を対象に出来ることは実施してもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は日頃からお金を所持してもらっており買い物の際は自分で支払いが来ている。預かり金として預かっている利用者は支払いの際に財布を渡し支払いが出来るように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩に声をかけ外出しており、買い物の際には声をかけ一緒に外出しているが、利用者の希望があれば時間を調整し遅くとも翌日には外出できるようしている。大半はその日のうちに実施できている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日ごろの話の中で、外出の話が上がると、参加利用者を集い実施する事が来ている。	○	利用者全員に満足してもらえる様な外出を提供できるように努めたい。また、家族の方にも声をかけ一緒に参加できるように声かけして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いた方で、希望の場合職員が、住所、あて先を記入の上郵送を行い、事務所には常時切手を備えるようにしている。自室に電話・携帯電話を所持している方はその都度連絡を取っている。	○	季節の手紙(年賀状・暑中お見舞い)等の手紙に書く機会が多くもてるよう促していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に面会に来てもらえるように面会時間は決めずに対応できている。また、夜間帯の面会に対しては事前に連絡を頂くように家族の方に声をかけている。面会の際は部屋でゆっくり過ごせるように椅子・お茶を準備し対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で拘束の意味を理解し利用者の自尊心を傷つけないように理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21時以降は安全のため鍵をかけているが、夜間煙草を吸う利用者がいるため、鍵は0時以降にかけるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はほとんどリビングで過ごす方が多く様子を把握できている。夜間帯は勤務者が1人の為、頻回に(1時間毎)見回りを実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・ナイフ等所持している利用者に関しては所持を職員が把握しており、居室以外での使用の際は職員が見守る様になっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各リスクの危険性を職員が理解し日々の業務に取り組んでいる。火災に関しては防災訓練を実施し火災の際の知識を学んでいる。また、誤薬防止のために、服薬の際は声だし確認をし職員2人で確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>○</p> <p>今後も緊急時の訓練を継続的に実施・確認していく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>○</p> <p>夜間帯等様々なケース想定した防災訓練を地域の方・消防団・消防署の協力の下実施していきたい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	<p>○</p> <p>今後もクリニック以外のかかりつけ医・看護師との連携を今まで以上にスムーズに出来るよう取り組んでいく。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>○</p> <p>食後の口腔ケアの実施を確実なものとし、自分で歯磨きが出来ない利用者に対しては職員が後から確認している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の低下している利用者に関しては毎朝かかりつけ医に報告をし栄養状態の管理を行うと共に、食事形態の工夫・食べれそうな食材の確認をし食事摂取量が確保できるように努めている。また、外部より栄養士をまねき栄養指導も取り入れている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを常にわかりやすい位置に掲示し、食前・排泄後に手洗い消毒を実施している。また、時間を決めてトイレの消毒・手摺りの消毒を実施している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は特に気を配り、その日に食す分のみを注文し新鮮な食材を提供している。また、利用者個人持ちの食品は消費期限を職員が管理し切れたものは利用者の了解の下処分している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出来るだけ玄関を網戸にして中の様子が外から分かるようにしている。玄関先にベンチや花等を置き親しみやすい雰囲気を作っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは落ち着いて過ごす事が出来るように、光の強さを調節しており、花を飾っている。また、水槽にメダカを飼っており安らぎの空間になるように配慮している。リビングでくつろげる様にソファのコーナーを設けている。また、和室にもソファを置き膝の悪い利用者が利用できるように工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気の合った利用者同士で話の出来る空間になっている。時には模様替えを実施し気分転換にもなるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの・好みで部屋を自由に使用できる旨伝え、実際に使い慣れ親しんだものを持ってきてもらっている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においに関しては換気を行い夜間にソファ等、拭き消毒を実施している。空調は基本的に入浴後からエアコンを入れるようにしているが、外気温に応じた、熱中症にならぬように状況に応じ気温を調節している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は独りでも移動できるように手摺りがあり、安全に移動できているが中庭に出る際に段差があるも自立した生活には影響がないと考える。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分で出来る力を生かし歯磨き等自立して行えるように環境を整えている。また、テーブル拭き等個々のレベルに応じて出来ることは全利用者に実施してもらっている。	
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にて菜園を実施しており、利用者に水やりをしてもらっており、食事にも少しではあるが収穫したものを出している。利用者の楽しみの一つになっている。	○ 今後は菜園の内容を充実させ利用者の活動の場を盛り上げたい。



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医)永槻会 グループホーム千怒の杜
(ユニット名)	かえで
所在地 (県・市町村名)	大分県津久見市千怒字藤道3849番地
記入者名 (管理者)	平松 里香
記入日	平成 21 年 1 月 23 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関に運営理念を明示。 他に職員で作上げた千怒の杜の心得として7つ掲げている。	
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に7つの心得を読みあげ業務に臨んでいる	
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関への掲示。入居契約時に説明を行い理解してもらえるよう努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩時や買い物へ出かけた際に、挨拶は気軽に行なっており、近所の方より、近くの畑で採れた野菜や果物等を頂く事もある。	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりの場として夏にバーベキュー大会を開催し地元の方にも参加していただき協力してもらっている。又、地区の小学校の運動会や、マラソン大会に呼んでいただき出来る範囲で職員、利用者共に参加させてもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>気軽に立ち寄って頂けるような催し物等の企画を行い、いかに窓口を広げて、継続していくかが課題である。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>職員によっては初めての者もあり、評価前、評価後によく趣旨を理解してもらえよう個別に面談を行い理解を深めるようにする。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進会議の意義を十分に理解し、規定回数の実施を行なうように全力で臨む。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>担当の方が転属等により変わった場合にもスムーズに関係の移行が出来るようにしていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>職員によっては、制度をよく理解していない者もいる為、勉強会の実施が必要である。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の説明をご家族・利用者の前で読み上げ説明おこなっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を聞き入れる体制をとっている。又、ご家族の協力により意見や、不満等をいただける事もある。その都度、利用者、ご家族、職員と話し合いを行い業務に反映している。	○ 口頭にて頂いた不満や苦情等をまとめた書式はなく、今後導入していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族、又は利用者には日常や行事の写真をお送りしている。状態の変化や、入居時に伺っている項目の事象が発生した場合には、電話連絡、又は、面会時に報告を行っている。金銭管理は、毎月毎に購入物品のレシートと、出納表を含めて郵送している。職員の移動は今のところ行っていない。	○ 遠方のご家族の方へも日々の詳細がわかるような書式を現在作成中であり、導入予定である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。口頭で受け付けた場合には、その都度、利用者、ご家族、職員と話し合いを行い業務に反映している。	○ 意見箱の利用の実績が殆ど無く、口頭での受付が多数であり、今後書式の作成をし内容、対応の明確化をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月全体会議を行い職員の意見等を聞いた後に、理事長を含めた管理職職員でのまとめの会議を開いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々、7時～21時までの間に職員の勤務時間を30時間以上になるように配置している。また、利用者の状態の変化に応じて追加人員等を行なっている。又、イベント時なども追加人員配置をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	柔軟、均等なサービス提供を行なう為に、ある程度の移動は当施設の建物構造上不可欠と考え、移動は基本的に2人/年ペースで行なっているが利用者には支障ないよう配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他施設研修・教育研修等積極的に参加するよう呼びかけ実施している。施設内でも勉強会を年数回実施し、能力を高めてもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>当施設より他施設研修を行い、又は他施設より研修生の受け入れを行なっている。又、地域包括支援センターや市内の基幹病院主催の会議、交流会にも、管理者、職員ともに出席、参加をしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>1回/年全職員に個別面談の機会を設け、必要者には随時相談窓口となり、個々の負担軽減を目指している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各人のレベルに合わせ役割分担し責任ある仕事をってもらうよう努めている。</p>	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>可能な限り、聞き取りにて行なっている。又、紹介者等からも経緯を聞きだせるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に聞き取りにて行なっている。又、継続的に伺えるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・御家族にとってよりよいサービスが提供できるよう努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居1週間を導入し、説明を行なっている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方通行な関係にならないよう、個々の得手、不得手を発見し、人生の先輩として教えていただいたりしている。又はその機会を作ろうと心掛けている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の意向や、ご家族の状況に応じて、自宅等でのケアも多角的に提案、実施をおこなっている。また、可能な限り介護へも参加していただけるような環境作り、提案を行なっている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方にご家族がいらっしゃる方には手紙のやりとりや、電話連絡等にて行なっている。又、面会時間の設定を行なっていないので、いつでも面会に来ていただいても良いように行なっている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	商店、病院、床屋等馴染みの場所へ行っており、自宅の周辺のご近所さん宅への送迎等も行なっている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	基本的には利用者の自主性に重きを置いているが、孤立、口論等がおきそうな場合に、過度にならない程度に声掛けを行い、おきた場合にはアフターケアを行い関係の修復に努めている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族、本人の意向もあるが、退去後に手紙のやりとりや、施設内イベントへの参加の呼びかけ等を行なっている。又、必要とされるサービスの紹介や居宅事業所の紹介を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前のアセスメント、入居後のアセスメントにて本人の意向を把握するよう努めている。	○	ご家族の意向も取り入れている場合もあるが、利用者本人とご家族の意向の差異がある場合のバランスのとり方に留意したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメント、入居後のアセスメントにて把握するよう努めている。可能な限りご家族等にも聞き取りを行なっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	生活パターン、バイタルチェック、出来ること、出来ないことを把握し自立支援を基本としたケアに努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	気付きノートや、業務日誌等により、必要時に必要な関係者を招集して、医師、看護師、管理者、介護職員、により行い利用者、ご家族の意向に沿ったケアが行なえるよう介護計画の作成に努めている。	○	やはり、利用者本人と、ご家族の意向の差異がある場合のバランスのとり方に留意したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね、1回/1ヶ月ケアカンファレンスを開催しているが、状態変化時にまずは、介護職員と話し合いを行い、必要時に医師、看護師へと相談し利用者、ご家族への報告と確認を行なっている。	○	状態変化により現状と適切なケアの提供に時間差が生まれる場合があり、正確な把握をし、最適な対応を見出し、速やかにケアの提供が出来るような書式、記録、カンファ等を構築していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科専門の医師が2回/月 以上往診に来てくださる。又、母体のクリニックの医師との連携により適切な指示がいただけるようになっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体のクリニックから看護師が処置に来ていただいたり、施設内で看護師を職員配置しており、担当医との連絡調整や健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は認知症の症状が進行するケースが多いため、入院時に当施設での様子、状態を報告し、度々面会に行き状態の確認を行い、その都度、看護師や生活相談員から話を聞いたり必要とあれば医師とも話をし情報を得て共有している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の時点で終末期についての話が母体クリニック院長、管理者と本人、ご家族と方針をきめている。また、状態の変化した場合や前兆となる場合には、都度に主治医、管理者、ご家族での、再確認、再方針の決定を行っており、その旨を職員全員に伝え臨んでいる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事前の方針にもよるが、可能な限り、当施設にて終末期の看護取り介護まで行なえるように検討、準備している。また、本人やご家族には、当施設でのできること、できないことを十分に説明を行なっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先に当施設での様子を添書、口頭にてお伝えし、日々のケアで取り組めるところは行なっており、必要時は居宅事業所の紹介を行なっている。又可能な場合は転居後も面会に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報施設から持ち出す事のないよう指導し徹底して行なっている。言葉掛けに対しても不適切な場合はプライバシーや尊厳に配慮するよう指導を行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の興味をそそる様な催しを行なったり、物を置いていたり個々のペースや趣味、嗜好に合わせ意志を尊重するよう努め、自己決定の場が増やせるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴等こちらの都合になってしまうが、買い物や外出、催し物や祭りなど利用者の意志を確認し出来る限り尊重している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室や洋品店へ通ったり、鏡の前でゆっくり時間をかけ髭剃り、整髪等自分で出来る方はしてもらい介助の必要な方は必要な分をこちらで行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け、机拭き、お茶入れ、食器洗い等それぞれ役割があり参加してもらっている。食事は朝食と夜食は職員も机を囲み共に食べている。	○ 利用者の方がやりがいと責任を持ってやってくださっており、とても誇らしいが、時に新しく参加した方へ排他的になってしまう場合があるので調和に留意する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌される方に夕食時お酒をお出ししている。又、その日の気分ですぐからお出しすることある。おやつは各人居室に持っておられる。その他食事時に個別に好みのものをお出しすることもある。タバコに関しては施設内禁煙であり、タバコとライターを職員に預けていただき、吸われる際にお渡しし屋外にて喫煙していただいている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>自身での入浴が可能な利用者の方にはいつでも入浴して頂きたいが、入浴中の事故を考えると入浴の時間帯が13:00～16:00までと、どうしても施設側の都合になってしまいご不便をお掛けしている、しかしテーマとして常に懸案していきたい。夜間等も入れるよう考えたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は居室に電話をひいていたり、携帯電話を持参して自由に電話をかけられる様にしている。お持ちでない利用者の方は施設の電話やFAXを利用している。又、切手を常時事務所に備えており、いつでもやり取りが出来るように準備、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングソファの配置に気を配り圧迫感の無い暖かみのある空間になるよう心がけている。頻回に来設されるご家族等は椅子などを持ち込みで対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に話し合い拘束の無いよう取り組んでいる。又、その事象となりうる可能性がある場合にも必ず、職員間にて話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開放しており、安易に鍵をかけないケアを念頭に努めている。また、必要時には、玄関等に人感センサーの設置を行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は日勤者が常に所在を把握し、夜間は夜勤者が巡回を行っており、車椅子のストッパー、床濡れ、ベッドの高さなど注視をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はやみや、刃物等を所持している利用者に関しては、職員が把握をしており、現段階での保管や管理は行なっていない。又、適度な緊張感を維持して頂く為、出来る限り使用し続けてもらえる様に努めている。	○	刃物に関しては、刺し傷、切り傷等、出血が伴うことが予想される為、止血や応急処置のマニュアルや勉強会の導入をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練のたびに課題を痛感させられる。転倒予防では個々の状態に応じて生活動線の把握を行い、家具の設置、手摺の設置を行なっている。ふらつきがある場合近くで見守る、巡視を増やす等配慮。薬に関しては声に出し2人で確認するように徹底して行なっている。	○	動線の把握を行い手摺や、家具の設置にて転倒予防の対応を行なっているが、それでも転倒した場合にどのようにしてダメージを軽減できるようにするかが今後の課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	突発的な誤嚥や窒息に備えて、医師や看護師による勉強会の開催を不定期だが行なっている。急変時のマニュアルをすぐ見れる場所に置いてあり、看護師へのオンコール、医師への報告等の手順が決められている。	○	非常時に対応が遅れない為にも、やはりなれる事が一番だと思うので反復継続して、定期的に行なうよう努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の監督の下、消火器取り扱い等の実施を、職員、利用者共に参加し、災害時に備えるとりくみを行なっている。地域の消防団や、近隣住民の方にも当施設のイベントに呼びかけをおこなっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事前の話し合いでリスクについての話はしている。なるべく自由に自分らしく生活できる様支援している。	○	リスクに囚われ過ぎて過保護になりすぎないように、又、リスクを軽視して安全不足にならないよう努めたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	母体のクリニックへバイタル測定の結果を報告を行なっている。異変などがある場合には医師の指示を受け対応している。主治医の違う利用者の方は、異変のある場合にかかりつけの主治医に報告を行い、通院、指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を個別でもらっている為、薬名、効能記入している。処方箋や臨時薬が出た場合も全ての職員が周知できるように日誌に記入をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩や、体操等して体を動かしていただき、水分を多くとってもらうよう努めている。ヨーグルト、バナナ等消化の良いものをジュースにしたり、食物繊維の多いものを摂取してもらうよう心がけている。又、医師の指示の下、排便コントロールを個別に管理している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後実施しており自立困難の方への介助を行い、適時、声掛けを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>外部より栄養士を招き、栄養指導取り入れており、炭水化物は個別に量を決めお出ししている。糖尿病患者の利用者の方には専門医の指示の下の食事量を提供している。又、居室に急須をお持ちの方やポット、水筒にて白湯を毎日定刻にお渡ししている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>すぐ見えるところにマニュアルを置いてある。特に手洗いには注意を払っており、アルコール消毒を食事前等、適時に行なっている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理用具は必ず毎食事煮沸消毒をしている。食材も肉、魚等は使う日に届けてもらい新鮮なものを使用している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関先には花を置き、ベンチを設置し、明るく和みやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、居間には季節の花や、利用者の生けた花を飾り、メダカの水槽を置き、廊下に腰掛や利用者の創作物、写真等を飾り明るい雰囲気作りに努めている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の意向や行動パターンを把握し、食卓やソファの配置を心がけている。但し、和室の利用率が低く課題である。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	ご家族の体力的な面で家具の搬入が困難な場合等、積極的に職員が手伝えるように努めていきたい。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	③利用者の1/3くらいの
		○	④ほとんど掴んでいない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	③たまにある
		○	④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
98	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
99	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	③家族の1/3くらいと
		○	④ほとんどできていない

遠方のご家族の方へも日々の詳細がわかるような書式を現

項 目		生じた場合には、電話連絡、又は、面会時に報告を行なっている	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	意見箱	①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	③たまに
		柔軟、	④ほとんどない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①大いに増えている
		他施設	②少しずつ増えている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	③あまり増えていない
		当施設	④全くいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
		○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
		○	①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
		○	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体のクリニックによる医療連携が徹底されており、その他の医院、病院等との連携も十分に行なっている。  
最終的にご家族と職員共に見取りまでを行なえるよう日々取り組んでいる。